

## 大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の調査結果（概要）

平成 25 年 6 月  
文部科学省

## 1. 調査の目的

平成 23 年 6 月のアイヌ政策推進会議「民族共生の象徴となる空間」作業部会報告書において、「集約の対象となる人骨を特定し、人骨の返還や集約の進め方に関する検討を行うため、各大学等の協力を得て、アイヌの人骨の保管状況等を把握する」とされたことを踏まえ、国公私立大学等を対象に調査を実施した。

## 2. 調査の時期

平成 23 年 11 月に調査票を各大学等に発出し、平成 24 年 12 月 25 日を回答期限として、平成 24 年現在の保管状況を調査した。

## 3. 調査の対象

国公私立大学、公私立短期大学、大学共同利用機関法人  
計 488 校、4 法人

内訳：全国立大学 86、全公立大学 82、全公立短期大学 19、  
私立大学（※）255、私立短期大学（※）46、  
全大学共同利用機関法人 4  
※私立大学、私立短期大学については、医学・看護学部系（解剖学等）、  
文学部系（文化人類学、考古学系）を設置する大学、短期大学を  
対象とした。

## 4. 遺骨を保管している大学の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している大学の数は 11 大学である。  
（北海道大学、東北大学、東京大学、新潟大学、京都大学、大阪大学、  
札幌医科大学、大阪市立大学、金沢医科大学、南山大学、天理大学）
- ・個体ごとに特定できた遺骨は 1,635 体である。  
うち、個人が特定できる遺骨は 23 体である。
- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が 515 箱に納められている。

## 5. 大学が保管に至った時期・経緯（個体ごとに特定できた 1,635 体）

## (1) 時期

戦前においては、明治 6 年から昭和 19 年までの期間に 899 体（約 55%）が収集され、戦後においては、昭和 22 年から平成 24 年までの期間に 609 体（約 37%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明な遺骨が 127 体（約 8%）ある。

## (2) 経緯

「研究のための収集」による遺骨が986体(約60%)あり、「(地方公共団体や個人等の)他者からの寄託」による遺骨が374体(約23%)、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が213体(約13%)、その他の場合が7体ある。また、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が55体(約3%)ある。

## 6. 発掘・発見された経緯等(個体ごとに特定できた1,635体)

### (1) 経緯

発掘された遺骨が962体(約59%)、墓地改葬に伴う遺骨が219体(約13%)、工事や地質調査等の際に発見された遺骨が103体(約6%)、その他の場合が38体(約2%)ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨は313体(約19%)ある。

### (2) 発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が869体(約53%)、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が329体(約20%)、個人等、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が96体(約6%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が341体(約21%)ある。

### (3) 発掘・発見された場所

北海道が1,439体(約88%)であり、樺太(サハリン)が135体(約8%)、千島列島が48体(約3%)、発掘・発見された場所が不明な遺骨が13体(約1%)である。

## 7. 大学に保管されている遺骨の状況(個体ごとに特定できた1,635体)

### (1) 遺骨の部位

頭骨が1,012体(約62%)、全身骨が541体(約33%)、四肢骨等が52体(約3%)、その他(歯など)が30体(約2%)である。

### (2) 副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は405体(約25%)である。

### (3) 保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が1,291体(約79%)あり、大学博物館で保管されている遺骨が305体(約19%)ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が39体(約2%)ある。

### (4) 保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が1,517体(約93%)あり、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が112体(約7%)、紙製の箱に保管されている遺骨が6体ある。